

学校だより



令和8年5月29日
横浜市立二谷小学校
校長 刀根 正秀

「地域とともに育つ学び ～まちたんけんを通して～」

副校長 須山 恵

日差しに初夏の趣を感じる頃となり、「ふたつや竹っ子すくすく出会う道」の草木も、生き生きとした表情を見せています。1・2年生、4・5・6・7組が育てているあさがおや野菜も日ごとに生長し、子どもたちはその変化に喜びを感じながら、意欲的に学習活動に取り組んでいます。

副校長の須山 恵（すやま めぐみ）です。昨年度着任し、今年度は二谷小2年目となります。地域の皆様に支えられていることを実感しながら、今年度も「誰もが安心して豊かに楽しく過ごせる学校」を目指し、教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

* * * * *

さて、本校では、2年生と3年生がそれぞれの発達段階に応じて「まちたんけん」の学習に取り組んでいます。同じように地域に出て活動する取組ではありますが、その学びのねらいと深まりには、学年ごとの確かな違いが見られます。

2年生の生活科では、地域の様子を親しみながら、「どのような場所があるのか」「どのような人々が暮らしているのか」といった素朴な気付きや発見を大切にしています。実際に見たり、聞いたり、触れたりする中で、子どもたちは自分たちの町への関心を高め、「もっと知りたい」「また行ってみたい」という意欲を育んでいます。



先日の活動の中で、たんけんの途中に落ちていたお金に気付いた児童がいました。児童と担任でどうすべきかを話し合い、近くの交番に届けることになったそうです。地域の中での出来事に対し、自ら考え、適切に行動しようとする姿は、生活科の学びの積み重ねによるものと感じています。

一方、3年生の社会科では、同じ地域を対象としながらも、より客観的な視点で町の様子を捉えています。「なぜこの場所に店が集まっているのか」「人々はどのように〇〇を利用しているのか」といった問いをもとに、調べたことを地図に表したり、共通点や違いを整理したりしながら、町のつくりや働きについての理解を深めています。振り返りの場面では、「今日行った場所の方角は？」「色分けをして気づいたことは？」という担任の問いかけに熱心に答える姿が見られました。見たことを根拠として説明しようとする姿にも、学びの成長が表れています。



このように、2年生では地域に親しみ、気付くことを大切に、3年生ではその気付きをもとに考え、説明へとつなげていきます。こうした系統的な学びの積み重ねは、今後の総合的な学習の時間において、自ら課題を見だし、探究していく際の重要な基盤、すなわち「材」となっていくものです。

子どもたちが地域と関わりながら学びを深めていく姿は、学校教育の大切な一場面であると考えております。今後とも地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、子どもたちの学びを支えてまいります。